

Y-S³

ヤマハサウンドシステムシミュレーター

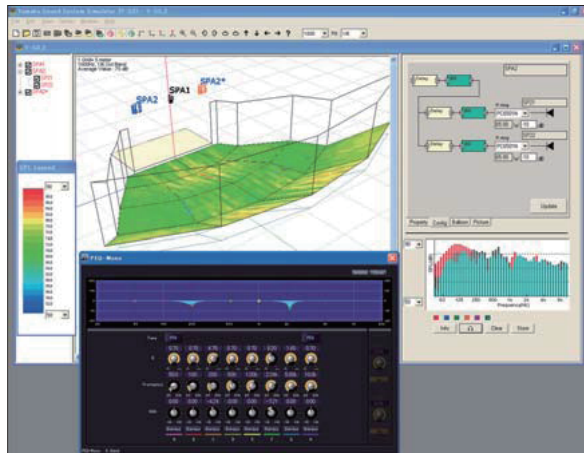
Yamaha Sound System Simulator

Y-S³ V3.0

ソフトウェア上で音響空間の可聴化・可視化などのシミュレーションが行え、インストレーションシリーズスピーカーの設置をサポートするソフトウェア

- ホール形状を選択し、スピーカーの配置、条件を設定することで音響空間のシミュレーションが可能。
- シミュレーションはPC上で可視化、可聴化しての調整が可能。
- 調整したデータはDMEデータフォーマットとして保存可能。
- グラフィカルなインターフェイスによるシンプルな操作性。
- イコライザーによる調整結果の可視化、可聴化が可能。
- ホール形状に合わせて最適なスピーカーを自動選択するAUTO LAYOUT機能、スピーカーの条件を自動設定するAUTO TUNE機能などを搭載。

※V3.0では、多層階のホール形状を作成できるようになりました。



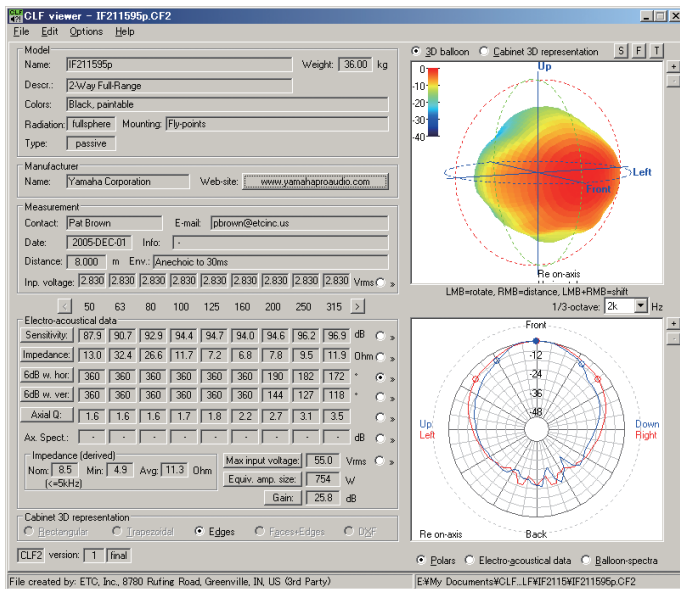
Y-S³ソフトウェアは下記の弊社サイトから、無償ダウンロードが可能です。
ヤマハプロオーディオウェブサイト jp.yamaha.com/products/proaudio

CLFデータ

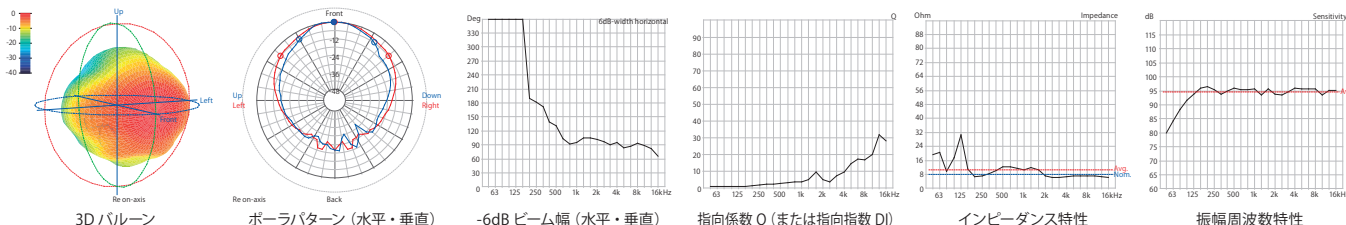
「CLF」とは「Common Loudspeaker Format」の略で、CLF GROUP (欧米のシミュレーションソフト開発会社4社、測定サービス会社1社、音響セミナー会社1社の計6社) が提唱しているスピーカーの共通仕様データです。各社まちまちであったスピーカーの仕様データを、ユーザーにとって利便性が高い共通の様式で提供するものがCLFデータです。

現在では30社ほどのスピーカーメーカーがCLFデータを提供していますが、ヤマハは他社に先駆けて最初にCLFデータの提供を始めた会社です。「インストレーションシリーズ」「S5/S15/S55」に加え、「CBR」「VXS」「VXC」「DSR」「DXR」「DBR」各シリーズのデータを提供しています。CLFデータをご覧頂くにはPCアプリ「CLF Viewer」が必要です。ヤマハ製スピーカーのCLFデータは、弊社サイトから、無償ダウンロードが可能です。

CLFデータで確認できる主なものを下に示します。
3Dバルーン、ポーラパターンは任意の周波数に切り替えて確認することができます。



CLF Viewer



ヤマハ製スピーカーのCLFデータは下記の弊社サイトから、無償ダウンロードが可能です。
ヤマハプロオーディオウェブサイト jp.yamaha.com/products/proaudio